

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	日本経済は今年2月から景気後退局面入りしており、反転の兆しをうかがう状況。生産・輸出数量の底打ちや原油価格の下落等の好材料も散見されるが、顕在化にはもう少し時間がかかりそう。一方、政府・日銀の景気判断の拠り所となってきた雇用面では、先行指標の求人倍率が低下に転じている。7-9月期の成長率次第では今年度マイナス成長の可能性が高い。こうした中、最大のリスクは消費税率の引き上げ判断。前回の税率引き上げ判断時とは異なり、米財務省をはじめ海外の市場関係者が税率引き上げに伴う景気悪化を懸念している。仮に決断する場合は、相当効果的な財政政策とセットで打ち出さないと円高・株安に振れるリスクがある。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景について、併せてご記入下さい。	地方に仕事を作る観点からすれば、一次産業と観光が有望。外国人観光客は順調に増加しているが、2020年目標の2000万人には更に1.5倍以上の増加が必要。更なる国や地域に対する観光ビザの発給要件の緩和が求められる。また、地方のPR促進のために優秀な官僚の自治体出向も必要。一次産業では、オランダやノルウェーのケースを見れば、輸出促進により競争力の高い一次産品を生み出すことで日本の成長産業になりうる可能性が高い。ただ、生産性の高い一次産業を生み出すには有力な企業の一次産業への参入が不可欠になる。しかし、日本再興戦略では企業の農地所有の解禁が5年後の検討になっている。一刻も早い農地法の改正が必要。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	米国経済が今月にも量的緩和を終了し、順調に行けば近い将来利上げが可能な状況にあるため、ドル高自体は自然な流れ。日本経済全体で見れば、円安ドル高になるほど国内の所得や税収が増えるため、ドル高自体は歓迎すべきこと。過去を振り返っても、ドル高の局面では日本株が上昇しやすい傾向にある。しかし急激な円安は、短期的に家計や中小企業への負担増をもたらす。このため、求められる対応としては、自然な円安は受け入れる一方で、エネルギーコストを下げる取り組みや、家計や中小企業への再分配を強化する政策が必要。天然ガスのジャパンプレミアム解消や、トリガー条項発動をはじめとした燃料費に対する減税等が選択肢として考えられる。